

# 立川で語れ

5

立川と語ろう 立川に生きよう  
May 2004  
ecoutez bien Vol.22 No.234

無農薬無化学肥料

甘納豆

栗菓子

4129



うどで  
お菓子を作りました。

うどら

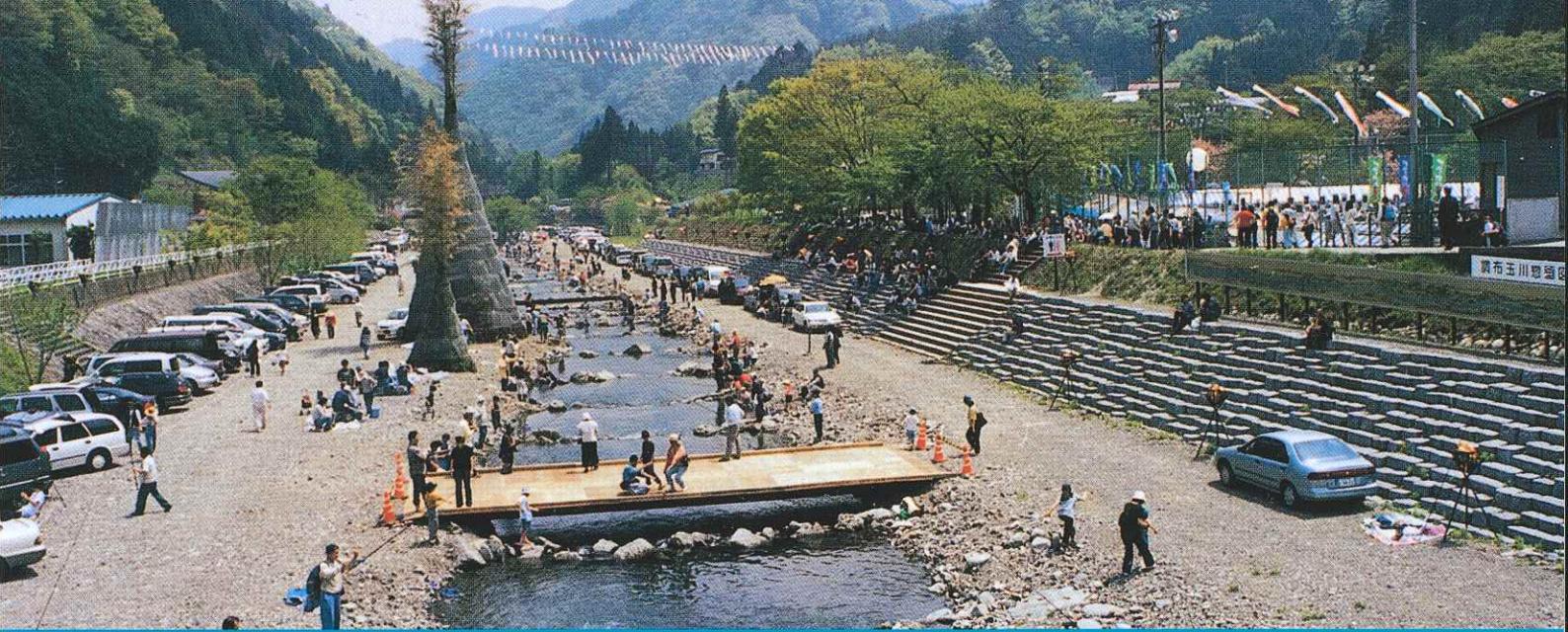
うどらの食感と風味を生かして、  
どうぞお楽しみください。

# 多摩川さんぽ

多摩川には笠取山腹の水干のほかにもうひとつの源流がある。

山梨県小菅村の小菅川源流がそれ。毎年5月4日、その河原で「多摩源流まつり」が開かれる。

今年18回目。豊かな川の恵みを村おこしにつなげようという村をあげてのお祭りだ。



# 川で村おこし

## 小菅村「多摩源流まつり」



メイン会場ではセレモニーやイベントが行われる

小菅村には立川から電車でJR奥多摩駅、さらに2時間に1便のバスに乗り継いで行く。中里介山の小説で名高い大菩薩峠への道。現代でも決して便利とはいえないが「源流まつり」の前後、多摩川支流・小菅川に沿った村は大にぎわいとなる。

メイン会場では、記念セレモニーのほか伝統芸能、音楽などの演奏が行われ、出店のイワナの刺身や塩焼き、手打ちそば、イノシシ鍋などに舌鼓、渓流釣り大会もあり、夕方暗くなると川原に設けた大きな松飾りに火が入り、巨大な炎の向こうに花火が打ち上げられる。

古くから伝えられてきた川の文化の再興と村おこしにかける、村ぐるみの意気込みが伝わってくる「水と火と味の祭典」。新緑に鯉のぼりが映える初夏の一日、源流の村は朝から晩まで、川に人々が集まる祭りの場になる。

# 銀幕の楽しさを次の世代に伝えたくて

立川親と子のよい映画を見る会代表  
**岡野 昌子さん**



於：曙町 多摩ばこネット編集工房  
写真：五来 孝平

**岡野** こんにちは！今日はせっかくだからこんなものを持ってきました。後ろに掛けさせていただいてもいいですか？

**芳賀** どうぞ、どうぞ。それにしても大きな布だなあ。しかも手作り。立川親と子のよい映画を見る会（親子映画）の上映記録ですか？昨年30周年を迎えたとうかがいましたが、こうやって見ると大変な歴史ですね。岡野さんは最初から関わっていらっしゃったのです。

**岡野** 会の活動は1973年からですが、私が子どもを連れて初めて観たのは76年です。夫の転勤で大阪から立川に移つて幸町団地に住むことになり、会の中心になっていた垣花靖子さんが同じ団地に住んでいらして親しくなって、「力仕事だけなら」ということでお手伝いするよ

■ 岡野昌子（おかの・まさこ）／1940年大阪市生まれ。立川に移り住み76年から立川親と子のよい映画を見る会に参加。初代代表だった垣花靖子さんの急逝により91年より代表に。子どもたちにそういう体験を提供し続けるってすごいなと思うんです。岡野さん自身も映画体験があったんでしょう？

■ 芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

■ 岡野昌子（おかの・まさこ）／1940年大阪市生まれ。立川に移り住み76年から立川親と子のよい映画を見る会に参加。初代代表だった垣花靖子さんの急逝により91年より代表に。子どもたちにそういう体験を提供し続ける会の活動は昨年30周年を迎えた。5月15・21・27日・6月4日に立川市女性総合センター・アイムなど会場を使って車椅子バスケットをテーマにした中映画「おばあちゃんの家」などを予定。

うになったんです。子どもが小学2年で、私も若かったんですね（笑）。垣花さんはからだが弱くて苦労された方ですが本当に素晴らしい方でした。その垣花さんが91年に急に亡くなられて、ズルズルッと引き継ぐことになって……。

**芳賀** そもそも、この会はどういうきっかけでできたんですか。

**岡野** 当時はあまり子どもに見せたくないような映画が氾濫し、テレビの影響も大きくなってきていた時期です。子どもたちの心が美しく賢く育ってほしいという願いで手作りの映画会としてスタートしたんです。国立や八王子で数年前から同じような運動が始まり、子ども文庫、子ども劇場などの運動が各地で一気に広がったのも同じ頃です。

**芳賀** その頃映画を観た小学生がもう30代から40代になるわけですよね。自分のことを考えても子どもの頃に観た映画の印象はずっと後まで残っています。子どもたちにそういう体験を提供し続けるってすごいなと思うんです。岡野さん自身も映画体験があったんでしょう？

**岡野** 小さい頃、近所の公園の野外映画会に行ったのがたぶん最初ですね。子どもだからチョロチョロ遊んでいてスクリーンの裏側に回ったら、そこにも映像が映っていて驚いた記憶が鮮明に残っています。たしか当時よくあった母の>映画だったのですが内容もよく覚えていないし、誰に教えてもらって行ったのかも思い出せないんですけど、なぜだか泣いていましたね、私も。その後は中学生になるまでは映画館なんかには行けなかったですよ。

**芳賀** 僕の育った田舎じゃ、中学生でも映画館に行ったりするのは<不良>と相場が決まっていた（笑）。

**岡野** 住んでいた大阪市のいちばん東はずれの街にも映画館ができる、中間とか期末の試験が終わると、とにかくその日はなにがなんでも映画でしたね。それも東映のチャンバラ映画（笑）。映画から社会性に目覚めるというような高尚さとは全然無縁で、とにかく映画は楽しいものだと思っていました。高校生になると、たまたま部活をさぼって学校帰りに梅田まで西洋映画を観に行ったり……。

**芳賀** 僕自身のことをお話しすると、映画ってこんなに素敵なんだと思ったのはオードリ・ヘップバーンが出た『マイ・フェア・レディ』。小学生でミュージカル映画の字幕がちゃんとわかったかもやしいけど、あのワクワクドキドキ感は今でも忘れられない。

**岡野** そうですか。いい映画ですものねえ。私はそのちょっと前の『ウェスト

サイド・ストーリー』が気に入って、友達を誘ってまた観に行ったことがあるんです。そうしたらその友人が「よかった！よかった！」と、それはもう感動してるんですよ。こんなに喜んでもらえるなんてと私の方がびっくりしてしまったことがあります。

**芳賀** 映画ってそういう力があるんですね。ある意味で人生を変えるというか。不思議なもので、同じ映画をビデオやDVDで観てもなにか違う。やはり劇場なりに行って、あの暗い空間で銀幕に向かって時間が大切なんじゃないかな。

**岡野** 内容を確認したりするにはビデオは便利ですけど、十分楽しむということはね……。子どもが一定の時間集中して映画を観るには訓練がいるんです。最初はその辺を走り回っていても何回か観ているうちに静かに観るようになります。今はテレビとかビデオ、DVDと、とりあえず代替になるものが増えて、そういう習慣が作りにくいのかもしれません。

**芳賀** 映画界全体の問題かもしれないけど、親子映画でもそれは感じますか？

**岡野** もちろん。昨年までの累計観客数は16万5000人ほどになるんですが、

1980年代の末くらいにガクンと観客数が減った時期があって、それ以後あまり増えないんです。鍋底状態。お金のことはあまり言いたくないですけど、入場料でフィルム代や運営費をまかなってトントンかほんの少しでも黒字にならいいという感じ。赤字になることもあります。本当は黒字を出して次の上映につなげていくべきなんですね。

**芳賀** どうしてある時期に急に減ったんでしょうね。

**岡野** 暮らし方が少しづつ変わってきたんですね。子どもは塾に行く、母親もパートなどの仕事に出ると家族そろって出かける機会が減ります。親も子も以前より忙しい。そこにテレビやビデオ、テレビゲームが加わってきた。

**岡野** 支えてくれる人の輪があれば、立川親子映画の会も日本映画も大丈夫！

岡野 そうです。そして会員を募集しておりますので、これもぜひ宣伝してください（笑）。

きたんです。それはそれでいいことですけど、お母さんはどうしたんだろう？って（笑）。

**芳賀** それはうちの子どもたちについてもいえそうだなあ。テレビゲーム世代ですからね。でも高校生、大学生になると今度は自分たちだけで観に行くようになりますよ。

**岡野** 映画って、劇場に足を運ばなくなるとずっと観ない時期がありますよね。昔はよく映画を観たというお年寄りでも10年、20年と観ていないという方が珍しくない。昨年『郡上一揆』という作品をシネマティで2週間上映させてもらったら、中高年の方がたくさん観にこられて「中高年のための映画を見る会を作ろうか」という声も出来ました。立川にはいい映画館があるんですから、きっかけがあれば自然と足が向くと思います。映画は子どもも大人もお年寄りも、障害のある方も、みんなが楽しめて感動できる。生活が楽しくなる文化なんですから。

**芳賀** このところ日本映画は元気がないけど、いい作品を作れば観てもらえる、ということになれば変わってくるでしょうしね。

**岡野** 秋に『おばあちゃんの家』という韓国映画を上映しますが、こういう映画を作れる韓国はすごいと思いました。日本映画も小津、黒澤といった過去の栄光しか残らないとしたら寂しいですよ。5月に実行委員会として上映する中田新一監督『ウイニング・パス』は車椅子バスケットがテーマの青春映画。鑑賞普及団体として日本映画は応援したいです。赤字になることもあると言いましたが、私たち誰もめげないんですよ。上映会の日はみんなで食べ物を持ち寄ったりお菓子なんかを差し入れてくれる人がいたり、お正月みたいだからかな？

**芳賀** 支えてくれる人の輪があれば、立川親子映画の会も日本映画も大丈夫！

岡野 そうです。そして会員を募集しておりますので、これもぜひ宣伝してください（笑）。

味乃寿司由 株式会社一心堂	柴崎町2-2-8 522-3733
すがの歯科	柴崎町2-2-16-2F 540-2675
紙匠雅	柴崎町2-2-19-1F 548-1388
ピストロすぎ浦	柴崎町2-2-23-1F 525-9929
ステーキ&欧風料理 クワトロ	柴崎町2-3-3 528-2983
Casual Restaurant ラ・バンバ	柴崎町2-3-3 524-5800
Pasta Frolla 立川南口店	柴崎町2-3-3 540-8033
不動産 ユウ都市企画	柴崎町2-3-13 528-2566
甘味処 石や	柴崎町2-3-15 524-0862
KIT'S SHOT BAR	柴崎町2-3-20-2F 522-8718
不動産 コマツホーム	柴崎町2-4-6 525-5811
喫茶 キャリー	柴崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処 わ	柴崎町2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	柴崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	柴崎町2-4-8 522-2894
ジョイフルプラザ アネックス	柴崎町2-4-14-1F 521-1228
ファッショナハウス ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパン オーロール	柴崎町2-4-15 527-9473
藤レディース 立川支店	柴崎町2-4-19-1F 528-5101

えくてびあんの  
立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は柴崎町のお店です。

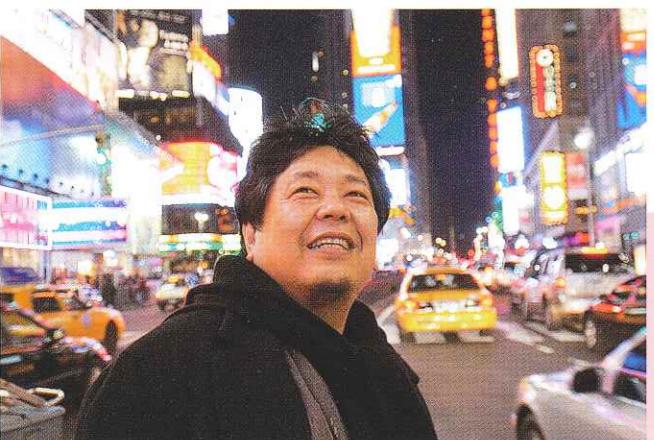
純中国料理 北京大飯店	柴崎町2-4-19-2F 522-6393
和食の店 ななや	柴崎町2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔 菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035
Cafe COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
マエダ文具店	柴崎町2-6-2 525-6584
Natural Life Shop ピュアグリーン	柴崎町2-6-2 521-2690
日本空手道 佐藤塾	柴崎町2-6-6 548-7460
スタジオ269	柴崎町2-8-10 527-0269
写真のエース	柴崎町2-9-2 523-0851
Fashion You Me	柴崎町2-9-28 523-1640
石原薬局	柴崎町2-10-3 523-4067
豆腐やざわ屋本店	柴崎町2-10-14 522-4338
立川中医整体 健身院	柴崎町2-11-21 522-0050
サイクルハウス 輪輪館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口店	柴崎町2-12-24 526-2947
有限会社伸洋	柴崎町2-17-2 526-3135
株式会社正盛堂	柴崎町2-17-6 522-2328
いなりし・のり巻きすし 松月	柴崎町2-17-20 523-4758

# ART EXPO To Dream in NEW YORK

夢に向かって 赤川政由

立川市在住の銅板造形作家赤川政由氏が  
ニューヨークで開催されたアートエキスポに初挑戦！  
自由の国アメリカをめざし世界中のアーティストが集う。  
その熱い6日間を追った。

取材・文 しおみえりこ



赤川政由プロフィール

立川市高松町の米軍ハウスに住む銅板造形作家。  
BONZE工房主宰。

赤川BONZEの愛称で親しまれ、立川市には立川駅デッキ上（伊勢丹デパート前）の飛行機と少年「空に向かって」をはじめ、幸公民館のセロ弾きの銅像など、さまざまなシーンで市民の目を楽しませている。



◆ニューヨークの中心タイムズスクエアで

会場のコンベンションセンター外観



◆いざ出陣 BONZE工房スタッフ勢揃い



2004.2.26～3.2



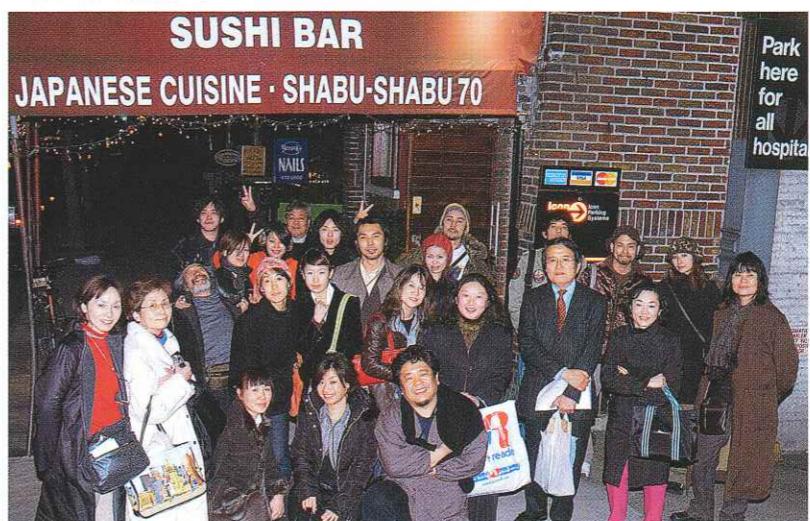
## 夢見る力——アメリカンドリーム

自由の国アメリカ、ここには確かに寛容な精神が息づいていた。ハドソン川に面して建つ巨大なJacob K. Javits Convention Centerで開催された「International Art Expo」には世界中から意欲あるアーティスト及びギャラリーが出し、訪れる人々を魅了していた。絵画が圧倒的に多いなかで、BONZE工房のような銅板造形作品は異色だ。この暖かなぬくもりのある作品に人々は目を見張り、その完成度の高さに称賛の声が贈られた。

「情熱がなければ何事も起ららない」。ヨーロッパのような敷居の高さはここにはない。情熱が事を成しうる場がここにはある。ニューヨークで認められることが世界への第一歩だ。そして赤川政由氏のBONZE作品は、正に確かな一步をここに残した

◆印写真提供：大隅孝之

◆立川から赤川氏の応援に  
駆けつけた支援者たち



赤川政由氏と中村一行氏。  
男二人の夢を運んだ ART EXPO in NY

## 熱き応援団

一昨年、銀座のギャラリーで赤川氏の作品と出会い一目惚れした男がいた。元銀行マン。アメリカの支店で長く仕事をしていた中村一行氏だ。現在は町田の自宅を小さな美術館として開放し、お気に入りの作品を紹介している。勿論赤川氏の作品もここにある。

彼はBONZE作品を世界中の人に見てもらおうとART EXPOへの出展を計画。昨年は二人でニューヨークへ出かけた。このエキスポを下見しながら思いは募り、夢に向かって行こう！と決意した。

立川にも、BONZEファンは多い。話を聞きつけたサポーターたちが個々に応援に駆けつけその数約30名、ニューヨークで古くから評判の日本料理店「しゃぶしゃぶ70」で一同会して、皆で赤川氏のニューヨーク進出を祝った。

長井 泉さん(幸町)

おいしいものは安心して食べられるもの。この信念に基づき、無農薬無化学肥料素材にこだわった和菓子づくりを続ける「花奴万葉庵」社長。確かな素材を求めて日本全国の生産者を訪ねた結論は、土が良ければ育った作物も良い。訪ねた先ではまず土を口に含んでみるという。愚直ともいえる姿勢は消費者からも支持され、高松町の本社工場、すずかけ通り店のほか立川内外に広がる。立川名産のウドを使ったドラ焼き「うどら」など、新たな名品の創作にも情熱を傾けている。

幸町 花奴万葉庵 すずかけ通り店にて  
写真:細江英公

## タチカワ誰故草 ⑩

## 飛行少年と非行老年

森 忠明

拙作が小学生用の国語教科書に載つていて、何十社もある教材出版社から拙作を使用した問題集が送られてくる。作者(森)の思いを次の四つの中から一つ選びなさい」とかいうのが多いが、たいてい二つ乃至三つ選びたくなり、大いに迷う。二十年間に十回ほど本気で問題集にチャレンジした結果、一度も満点をとったことがない。95点が最高で、ひどい時は60点。

この物語で作者は何を伝えたいのか——究極のところは作者当人にも分からぬのではないかろうか。私などは評論家や研究者の論文によって、(そうか、オレはそういうふうに考えてたわけね)と、腑に落ちてもらうことを無上の楽しみとしている。

解釈の自由や主觀尊重は国語科の喜ばしい面ではあるけれど、先日、二種類の与謝蕪村集を並行して読んでいたら、学者たちの読解の、あまりの違いすぎ、「自由すぎ」に积然としないものを感じた。

閑古鳥さくらの枝も踏んで居る

について、新潮日本古典集成(清水孝之校注)には「閑古鳥の奴、その名も隠逸めかしているのに、あの世間を騒がせたスターの桜の枝にもとまっているとは、案外色気の多い、俗な鳥だな」とあり、講談社版(尾形介・森田蘭校注)では「閑古鳥といえ、寂しい鳥と相場が決まっているが、時に華やかな桜の枝も、ちよんちよんと楽しそうに踏んでいる。」

前者は邪氣と毒素に満ちた解釈じや。余を狭量な嫌味の持ち主に「飛行少年と対になる少女像を、森さんの娘さんをイメージしてつくってるんだ」畏れ多くも赤川政由氏はそうのたまひ、それは既に完成し、わが娘は「見てきたよ」と言っているのだが、何故か私には見つからない。  
「オレみたいな煩惱無尽の非行老年には現前しない彫刻なのだから」と解釈した。ひがみすぎだらうか。



挿画:野崎義成

するでない。後者は文科省向け屁もこかずリーディング!夜半亭はそんな不平を鳴らすだろう。

去年の今頃だったか、北口のデッキを歩いてゆくと、銅板を素材にした彫刻で有名な赤川政由氏が、自作『風に向って』INTO THE WIND(私はこの大傑作を勝手に『飛行少年像』と呼んでいた)を仰ぎ見ながら、三十人くらいの人々に解説しておられた。主に製作技術上のことを分かりやすく、誠実に話された姿に引きこまれた。さすが、と思つたのは、氏が飛行少年にまつわる想い出を語るにとどめ、そのモチーフや鑑賞法に決定論を述べなかつた点だ。「こう見てほしい」なんておっしゃらないのだつた。たしかに、四季折々、朝昼夜の中で、「天の眷属」(宮澤賢治)のような、あの聖少年像は、千変万化の清新な光を放ち、我々を見守つてゐるのである。

## スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薙子  
デザイン ウォーターデザインアソシエイツ 池田隆男  
AMNET design factory  
写真 五来孝平

## えくてびあん(C)5月号

第22巻 通巻234号  
平成16年5月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012 東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## えくてびあん流

多摩ひにネット  
多摩エリアの情報  
コミュニケーションサイト!

<http://www.tamatebako-net.ne.jp/>

Haco Gallery から飛び出した  
ワンコイン講習会

立川駅北口シネマシティの1階に、甘い香りただようシネマカフェがある。キャラメルポップコーンに誘われて中に入ればその奥に、5つの箱に入ったアートが展示されている。油絵やビーズ作品と並んで飾られているミニチュア・ドールハウス。見るだけでなく、映画の待ち時間を利用して実際に作ってみようという催しがあった。講師はHaco Galleryではおなじみのミニチュア・ドールハウス作家 宇田泰子さん。3人のお子さんを持つ主婦でありながら、TVチャンピオン「手先が器用王選手権」「ドールハウス王選手権」2冠の実力者。気さくで温かい指導に、子どもたちも大喜びの工作教室になった。30分で500円、上映時間までの待ち時間手ぶらで来てもOK、しかもミニポップコーンのおみやげ付き! できあがった作品を手に「楽しかったね!」「また来る?」一あとを曳く企画だ。



今回の作品見本

## この人この店 ⑩

古布専門店  
はてな

店主 福島ひろ子さん



〒190-0011 立川市高松町3-30-24  
TEL 042-527-3339  
営業時間 月~金 11:00~18:00  
土・日 12:00~18:00  
定休日 木曜日

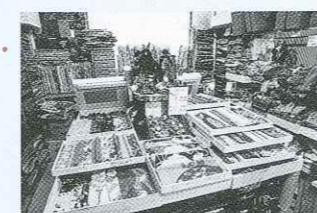


写真:五来孝平

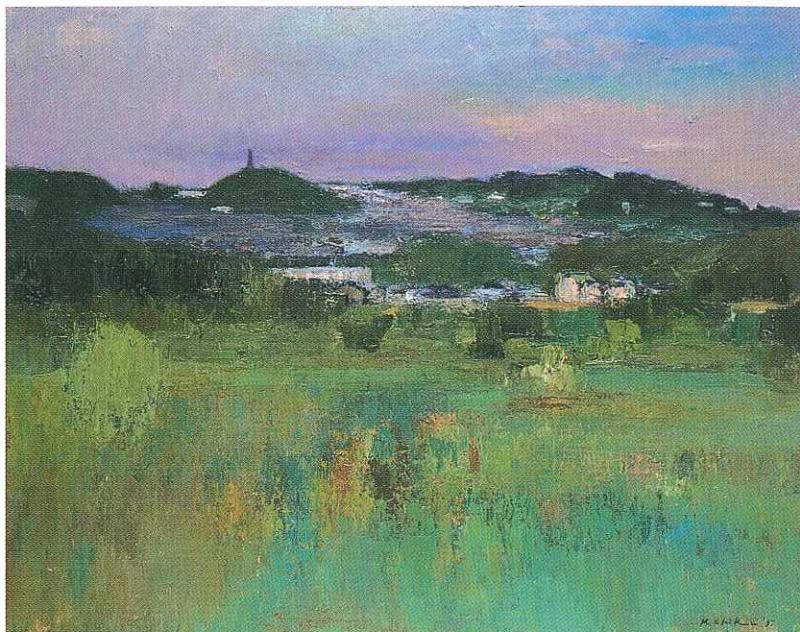
私たち「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客様までいろいろなコミュニケーションがあります。私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、行なっている会社です。



大廣社は、企画デザインから  
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING DESIGNING  
PROCESSING PRINTING  
〒190-0022  
東京都立川市錦町5-17-13  
TEL 042-527-1949  
FAX 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
042-527-1911



## 「多摩丘陵遠望」

1997年 30F

この連載でもすでに2回登場している場所であるが、季節によりちがつた肖像を見せてくれる。今回の作品はいつもより比較的小さな作品（三十号）だが、緑の微妙な色合いを時間をかけて取り組んでみた。

川原の変貌は目を見張るものがある、と同時に、緑の個性がひとつひとつ際立つて見分けられるのも、この季節である。

五月の風に舞う草木の息づきは美しいハーモニーとなり、壮大な宇宙からの演奏かと錯覚さえ感じさせる情景にも思えるのである。

そんな場所で自然とともに共存できることを幸せに感じるが、最近、多摩川は護岸工事が多く、自然の姿がなくなっていくのが大変寂しい気がする。